

D—12 職業をもつ主婦の疲労に関する研究
(第3報) —農家の主婦について—

千葉大教育 戸川 初枝

1. 最近農業経営において主婦の労働力を重視する傾向が高まってきているが、これは一面において、他の職業および他の地域における主婦の労働力との較差をますます増大していくのではなからうか。今回は農家の主婦を対象として、その就労と疲労の問題に視点をおき、調査を実施した。

2. 調査対象は県内の純農村地帯(半作、蔬菜)と千葉市周辺の蔬菜、果樹地帯を選び調査時期は、農閑期・収穫後の11月初旬・蔬菜植付の4月中旬にわたり、それぞれ3日～4日間調査を行なった。疲労検査にはフリッカー値測定器を使用し、同時に自覚症状調査、生活時間調査を行なった。

3. 11月および4月の時期においては、農業・家事労働時間の合計は700分～750分であるが自覚症状調査での訴え率は5～10%で低く、フリッカー値測定の結果は変動率は小さく、機能低下はあまりみとめられなかった。

農閑期における農業労働時間の減少の分は社会的、変化的生活時間の増加でうめられ、家事労働時間の時期的変化はあまり大きくない。ここに農村家庭生活の近代化の一つの方向がみられる。